

あゆみらいん 第281号

2025年の干支は

「乙巳」

(きのと・み)

2025年(令和7年)は巳年(み年)。動物にあてはめると蛇になります。蛇は古代から再生や永遠の象徴とされ、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿がその象徴となっています。こうした意味から、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とも解釈されています。

干支(えと)とは?

年を数える十二支のほか、日を数えるための十干(じっかん)という数詞があります。本来、干支とは十干十二支のことで、10と12の最小公倍数である60にあてはめていくもので、干支とはこれら「十二支」と「十干」を組み合わせたもの。60を周期とする数詞であり、暦を始めとして、時間、方位などに用いられます。2025年は十干が「乙」、十二支が「巳」で、その組み合わせで「乙巳」となります。

【十二支】「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類で年・月・方角・時間を表す。

【十干】「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10区分で、等級区別に使われる。

**「乙巳(きのとみ)」は・・・**

「乙」は十干の二番目で、物事の発芽や成長の初期段階を表しています。まだ未熟で、柔らかく、しなやかなエネルギーを持っており、自然の流れの中でゆっくりと成長しようとする姿勢を象徴します。

「巳」は十二支の六番目で、成長過程の一つの節目を表します。巳は、生命が成熟し、成長が安定するタイミングで、変化や変容の意味も含まれます。このため、「巳」は自らの殻を破り、変化を遂げること、つまり物事が一つの形を完成させ、さらに新しい段階へ進む準備が整った状態を示します。

「乙巳」である2025年は、芽吹きが成熟し、転機を迎える時期になるでしょう。

「巳・蛇」についての豆知識

「巳」を動物にあてはめると「蛇」になりますが、古来、蛇は信仰の対象となっており、谷神(やとのかみ・谷や低湿地を司る)、豊穡神、天候神などとして崇められてきました。祭祀や祀りごとの「祀」に「巳」が用いられているのは、「祀」とは自然神を祀ることをいい、自然神の代表的な神格が巳(蛇)だったからです。

また、蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させ、餌を食べなくても長く生きることから「神の使い」として崇められ、全国各地に蛇神を祀っている神社があります。たとえば、七福神のひとつである「弁財天(弁材天)」は蓄財や芸能の女神ですが、弁財天の使者や化身は蛇とされています。



蛇の抜け殻を縁起物として財布に入れたり、お守りにしたりする風習があるのは、蛇は脱皮を繰り返して成長することから、金運や幸運を招くと考えられています。

世界の蛇にまつわる縁起の良い神話や言い伝え**ギリシャ神話**

ギリシャでは、蛇は健康と治癒の象徴とされています。アスクレピオスは医学の神として知られ、その杖には蛇が巻き付いています。この杖は、現代の医療のシンボルとしても広く認識されており、蛇は治癒の力を持つとされています。

インドの言い伝え

インドでは、ナーガという蛇の神が存在し、非常に神聖な存在とされています。ナーガは水源や財宝の守護者として信じられており、その恩恵を受けることで人々は豊かさや幸運を得るとされています。

北欧の神話

北欧神話では、ヨルムンガンドという巨大な蛇が登場します。ヨルムンガンドは世界を取り巻く存在として描かれ、その再生力と不死性が強調されています。この神話により、蛇は再生と永遠の象徴とされています。

巳年に参拝したい神社・寺(東京都)

日本各地に、蛇を祀る神社や寺はたくさんありますが、東京都限定でいくつかご紹介します。

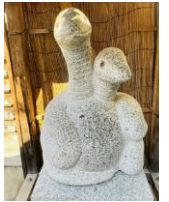
《寛永寺》 台東区上野桜木1丁目14-11

寛永寺の境内にある不忍池辯天堂は、弁財天を祀っています。その弁財天には宇賀神(うがじん)という人の顔と蛇の身体をした神様が乗っており、境内ではその石像を見ることができます。



《蛇窪神社》 大田区田園調布本町 7-9

蛇窪神社は病氣平癒や健康祈願のご利益があるとされ、多くの参拝者が訪れます。特に巳年には、蛇にちなんだ特別な御朱印や御守りが用意されることもあり、人気を集めています。境内には蛇の石像があり、この像を撫でると健康運が上がるとも言われています。



撫で白蛇

7匹のヘビの像と1匹の白龍の像があり、『龍の使いである白蛇が8匹目で白龍になる』という伝説を表しています。

《穴八幡宮》 新宿区西早稲田 2-1-11

北参道の鳥居に令和元年に竣工された新しい鳥居の足元に北方を守護するという玄武(蛇と亀が合体したような姿)がいます。



《根津神社》 文京区根津 1-28-9



神使の白蛇が住んでいたと言われるカヤの木。人々が願いごとをするとその願いが不思議と叶った…と言われています。

特別なお守りとして「白蛇守」があり、白蛇は古来より幸運の象徴とされ、このお守りを身に付けることで多くのご利益を受けられると信じられています。また、根津神社の御朱印は非常に美しく、特に白蛇を象徴するデザインが施されています。

《金辯財天(こんべんざいてん)》 新宿区河田町 8

祠を守るのは狛犬ではなく狛巳(こまへび)で、こちらの狛巳は左右でとぐろの巻き方が違うもので、金運を運ぶ狛巳とも言われています。



《奥澤神社》 世田谷区奥沢 5-22-1



鳥居に藁でできた大蛇が巻き付けられています。長さ約10メートル・重さ約150キロもあるそうです。

こちらの大蛇は『奥澤神社の大蛇お練り行事』で街を練り歩きますが、普段はこちらで参拝者を迎えています。